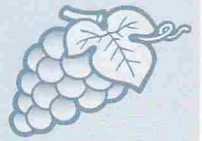




まなびやまと



No.24

平成25年(2013年)10月
大和市教育委員会

楽しもう お話の世界

～学校図書館スーパバイザーを迎えて～

大和市立下福田小学校

大和市教育委員会では、読書活動の推進を重点施策として位置付け、学校図書館教育の充実に努めています。今年度より、学校図書館スーパバイザー（SL S）が、各学校を巡回しながら、学校図書館の運営や活用を支援しています。

6月11日（火）、下福田小学校3年生で、保護者参加型の授業参観がありました。学校図書館スーパバイザーの藤田利江先生と担任の先生による、読書に関する授業が行われました。



初めに、クラスごとに、読書感想文の書き方を学びました。担任の先生による、いもとうこの『しゅくだい』という本の朗読を聞き、児童は「感想文を書くこと」というワークシートの問いに従って、感想を書き始めました。登場人物の言葉から、どのようなことを感じたのか、登場人物の気持ちはどうだったのか、などを想像しながら書くよいことを学びました。

次に、3年生全員が体育館に集まり、藤田先生によるアニメ



出され朗読が始まりました。その後、『半日村』のお話に沿った三つのクイズを行い、適切な回答に喜ぶ児童に藤田先生は「お話をよく聞いていましたね」と笑顔でほめていました。

授業に参加された保護者の方は「読書感想文の書き方を教えていただけでよかったです」「子どもたちはお話のクイズを楽しんでいました。お話を忘れないと思います」と話されていました。

広がる深まる読書活動

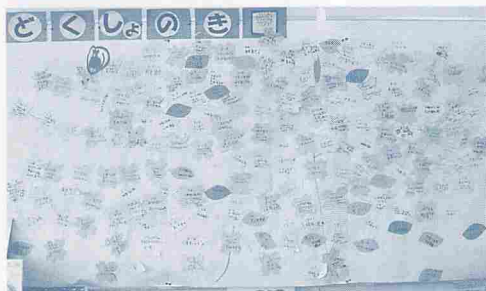
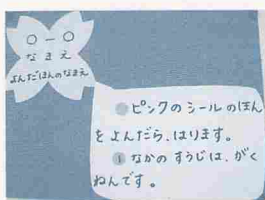
大和市立大和東小学校

大和東小学校では、読書活動の充実のために、学校全体で様々な取り組みをしています。

その中の一つは読み聞かせ活

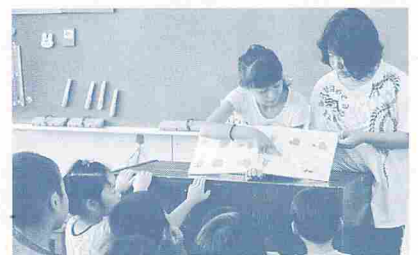


『ふらいばんじいさん』あかね書房



動です。7月8日（月）、1校時が始まる前の時間、1年生の教室では6年生による絵本の読み聞かせがあり、絵本の周りに集まってお話を楽しみました。図書委員や、

また、国語の教科書で紹介されている本を読むと、自分の名前を花びらに書き「どくしよのき」に貼ることができ活動や、本をたくさん読んだ児童への、本のカバーで作ったエコバッグプレゼントなどの取り組みもしています。児童の読書の量が増えただけではなく、読む本の種類も広がり、質も深まってきています。



夢先生がやってきた!

大和市立上和田小学校

7月4日(木)、上和田小学校の5年生で、「夢の教室」が実施されました。講師は、平成24年に行われたフットサルのワールドカップ日本代表キャプテンであり、現在バルドラー



ル浦安で活躍中の、小宮山友祐さんです。本教室は、大和市と公益財団法人日本サッカー協会(JFA)が協定を締結し、市内19校の5年生を対象として行われるものです。現役選手、OB・OGなどが「夢先生」となり、夢を持ち、その夢に向かうと頑張る気持ちや、仲間と協力しようとする気持ちを児童にもってもらうことをねらいとしています。

初めに、体育館で、小宮山さんから「夢の教室」を行うにあたり、三

つの約束を守ってほしいとのお話がありました。「人の話を聞くこと」「ルールを守ること」「友だちを思いやること」です。クラスの31人が協力して行うゲームを通して、三つの約束の大切さを学びました。



次に、教室に移り、小宮山さんからフットサルの選手になるまでの歩みを聞きました。サッカーを続けたかったけれど、がをってしまったこと、サッカー選手の他に、もう一つの夢であった学校の先生になったこと、もう一度フットサルの選手として頑張ろうと思ったことなどのお話に、児童は途中で質問を交えながら真剣に聞き入っていました。小宮山さんは「これからは協力してくれた人たちに恩返ししたいです。フット



サルの発展を目指します」と話され、「人のために何かをしたい」と思うことが大切であり、そのような人を

周りの人はきつと応援してくれると熱を込めて伝えていました。

最後に、児童一人一人が自分の夢について考え、カードにまとめました。「ピアニストになるために、たくさん練習したり、曲を作ったりしたい」「医者になって人を助けたい」「プロサッカー選手になるために、自分が納得するまで練習したい」と思い思いの夢を語りました。

個性が輝く

マイゆるキャラ作り

大和市立つきみ野中学校

つきみ野中学校の2年生が、美術の授業で、「マイゆるキャラ」作りに取り組みました。「このマイゆるキャラは、つきみ野中学校の2年生としてふさわしい自分になれているかを見つめてみることを目的に、自分自身とよく向き合い、良いところを中心にベースとなるキャラクターを考えて表現したものです」と指導された高部祐二先生は話していました。

紙粘土で作られた、高さ20センチほどの、個性あふれるマイゆるキャラが、廊下に設置された飾棚に所狭しと並べられました。作品の一つ一つに、自分を見つめた思いが書かれた作品カードが添えられています。3年生による投票の結果、志賀



志賀諒平さんの作品

諒平さんのマイゆるキャラが、グラブに輝きました。「好きなスポーツは野球で、頑張っていることは、野球と勉強。好きな動物は猫です」と猫をかたどって自分を表現したそうです。また、2位の山崎花さんは「模様の花は、外国のお皿をイメージして描きました。全体的に優しい感じの色にしたかったので、薄い卵色にしました。がま口の中には何が入っているのかわかりません。人に流されやすく、何を考えているのかわからないところがあります」という思いで自分を表現したそうです。自分の良いところ、得意なこと、苦手なこと、大切にしていることなど、今の自分を見つめる中学2年生の思いがあふれるマイゆるキャラたちでした。



山崎花さんの作品

ボランティア活動で

地域に貢献

大和市立引地台中学校

引地台中学校では、様々なボランティア活動を通して、地域に貢献しています。自主的な取り組みとして、地域の団体からのボランティア募集を担任の先生がクラスで伝え、参加者を募っています。この取り組みには、日常生活の中で、身近にボランティア活動があることに気付かせること、中学生でも様々な場面で人の役に立つことができる意識させること、人と人が支え合って生きていく大切さを理解させることという目的があります。



ボランティアの内容は、地域の祭りや幼稚園の運動会の手伝い、地川の清掃、地域のごみ拾いなどです。大和市民まつりのボランティアに参加した生徒は「昨年参加したのですが、ごみは変わらずたくさ



ん落ちていました。でも、ごみをボランティアの所に持ってくる人もいました。ボ

ランティアの姿を見て、感心されましたが、ごみがないことが一番で、ごみのないきれいな引地台公園で大和市民まつりを楽しみたいです」と感想を書いていました。また、地域のお祭りに参加した生徒は「僕は餅を作る担当でしたが徐々に慣れてきました。皆さんユニークな方ばかりで楽しかったです。他の担当の方々と交流ができて、最後は皆さんと楽しくお昼ご飯を食べることができました」と感想を書いていました。どちらの生徒もまた参加したいということです。担当の先生によると、参加した生徒は意欲的に地域の方々の指示を仰いで活動してお



り、ボランティアをして楽しかったという思いを抱くことが多いということ。今後、ボランティアに参加した生徒が、他の生徒を巻き込んでいくような活動になってほしいと話していました。

インターネットは ルールを守って使おう

大和市立大和小学校

6月22日(土)、大和小学校6年生を対象に、「情報教育講演会」が行われました。講師は、文教大学情報学部准教授の池辺正典先生でした。当日は土曜授業参観として開催され、保護者と共に学ぶよい機会となりました。この講演会は、パソコン、携帯電話、携帯ゲーム機などの情報機器を使ったトラブルが児童の間で起きたことを受け、ルールを守って使うことの大切さを伝えることを目的としていました。

講師の先生の「インターネットでどんなことができるでしょう」という問い



かけに、児童は次々と「分からないことを調べる」「ゲームをする」「動画を見る」「メールをする」と答え、インターネットが児童の生活に浸透していることが伺えました。パソコン、テレビ、ゲーム機、携帯電話、スマートフォンはみんなインターネットに接続できることを知り、知らないうちに



にインターネットにつながっていきお金がかかっていたり、個人情報が行ったりすることもあつたというお話に、児童は気を引き締めた様子でした。

引き続き、保護者対象の講演会がありました。トラブルの事例や対応方法、子どもの成長に合わせた情報機器の使いせ方などの具体的なお話があり、保護者の方は「使いせ方については、保護者同士が共に考えていきたい」と感想を述べました。講師の先生は「使い方はお子さんと話し合せて、家庭内ルールを作ってください」と話されました。大人も情報機器の安全な使い方を学ぶことの大切さを感じた講演会でした。

中林小の取り組み

大和市立中央林間小学校

中央林間小学校は、大和市の北部に位置する児童数約600人の中規模の学校です。閑静な住宅地には鳥がさえずり、横浜水道の「さくらの散歩道」や我が国最古期の土器が発見された月見野遺跡群などがあり、自然豊かで由緒ある地域にあります。本校では、「未来を創る子どもたち」を教育目標に掲げ、日々、様々な教育活動を展開しています。

地域と一体となったあいさつ運動

2年前から児童理解部や生活委員会が中心に行っていたあいさつ運動が、昨年度、高学年児童の「あいさつができていない人が多い」という声から、さらに全校児童に広がってきました。また、PTAにもあいさつ特別委員会が設置されるなど学校・地域を挙げての運動が盛り上がっています。朝の校門では、生活委員会の児童やPTAの方が並んで、登校してきた児童に明るい笑顔で声をかけています。今後も息の長い取り組みを続け



ていきたいと考えています。

一人一人が輝く校内音楽会

本校では、毎年秋に校内音楽会を行っています。この時期、学年ごとに音楽の時間を中心に合唱や合奏の練習を熱心に行い当日を迎えます。今年度は、地域の方を合唱の講師に迎えてさらにレベルアップを図っています。合奏も児童一人一人が活躍できる場面を作り、達成感のある行事の一つとなっています。

6年生による秘伝の書の贈呈式

本校では、卒業式の予行演習の最後に6年生から5年生に「秘伝の書」という巻物が恭しく贈呈される儀式があります。

「すばらしい6年生になるために次のことを心がけるべし」という前書きに続いて、高学年の自覚を持つこと、他学年の見本となること、積極的に地域貢献すること、さらには夢に向かって歩み続けることなど10個の訓辞が記されています。この巻物は、6年生の各教室に1年間掲示され、3月には、新たに後輩への思いを込めて作り直し、また次の学年に



引き継がれていきます。「秘伝の書」は、中林小の良き伝統の一つとなりつつあります。

これからも中林小の風土や伝統を大切にしつつ、新たな課題にもチャレンジしていきたいと考えています。

アナフィラキシーショックから

命を守る

大和市立林間小学校

6月25日(火)、林間小学校の教職員を対象に、大和市教育委員会保健給食課主催の「学校での食物アレルギー対応とエピペン(アナフィラキシー補助治療剤)研修」が開催されました。これは、大和市立病院小児科の先生方を講師に迎え、市内全小中学校の教職員を対象に、順次開催されているものです。食物アレルギーの概要と、アナフィラキシーショックに対応するためのエピペンの使い方の説明を聞いた後、実際の場面を想定して、実習を行いました。校長先生は「教師が子どもの異変に気付くこと。そして、教師同士が協力して対応することが大切だ」と話され、研修会を終了しました。



青少年健全育成講演会を

開催しました

大和市教育委員会・青少年相談室

7月13日(土)、青少年健全育成講演会が渋谷学習センターで開催されました。「子どもたちの豊かな育ちを支えるために」



「家庭・学校・地域にできること」という演題で、大和市教育委員会青少年相談室特別相談員であり、日本社会事業大学大学院特任教授の山下英三郎氏にご講演いただきました。いじめ、不登校、発達障害、虐待など子どもたちは様々な問題に直面しています。福祉の立場で関わるスクールソーシャルワーカーは、問題を個人に返すのではなく、それは子どもと周りの環境との間にあるとらえて双方の間に入って活動しているということ、問題はだれでも抱えるものでありそれがプラスの体験となつて成長に結びつくよう大人がサポートできるとよいというお話をいただきました。

「まなひやま」とは、開かれた教育行政の環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
〈お問い合わせ〉大和市教育委員会
指導室 260-15210 教育研究所 260-015213